

〈小学校 特別活動〉

互いのよさを生かして合意形成を図る児童の育成

— 事前の活動の充実と多様な意見の可視化を工夫した話し合い活動を通して —



浦添市立 内間小学校

末吉 増樹

# 目 次

I	テーマ設定理由	17
II	目指す子ども像	18
III	研究の目標	18
IV	研究仮説	
1	基本仮説	18
2	作業仮説	18
V	研究構想図	18
VI	研究内容	
1	合意形成について	19
2	互いの意見のよさを生かし合うことについて	19
3	事前の活動の充実	19
4	互いのよさや合意点を見つける可視化の工夫	22
VII	授業実践	
1	検証の計画	23
2	検証授業第1回目	25
3	検証授業第2回目	26
VIII	結果と考察	
1	作業仮説(1)の検証	27
2	作業仮説(2)の検証	30
3	本研究を通じた児童の姿	32
IX	研究の成果と課題	
1	成果	32
2	課題	32
	主な参考・引用文献	32



## 互いのよさを生かして合意形成を図る児童の育成

### 一 事前の活動の充実と多様な意見の可視化を工夫した話し合い活動を通して 一

浦添市立内間小学校 末吉 増樹

#### 【要 約】

本研究は、様々な構成の集団から学校生活を捉え、よりよい集団や学校生活を目指す学級活動（1）において、その中核となる「話し合い活動」とその「事前の活動」に焦点をあて、互いのよさを生かして合意形成を図る児童の育成を目指したものである。

キーワード □合意形成 □互いの意見のよさを生かし合う活動 □事前の活動の充実  
□互いのよさや合意点を見つける可視化の工夫

#### I テーマ提案理由

子ども達が活躍するこれからの社会は、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新により社会構造や雇用環境は急速に変化し、ますます予測困難な時代へと変容していくことが予想される。

このような社会にあって、中央教育審議会答申(H28)では、学校教育を通じて子ども達に育みたい資質・能力を「対話や議論を通じて、自分の考えを根拠とともに伝える」ことや、「他者の考えを理解し、自分の考えを広げ深めたり、集団としての考えを発展させたりする」こと、さらには、「他者への思いやりをもって多様な人々と協働していくことができる」ことと提示している。このような児童を育むためには話し合い活動を中心に様々な構成の集団から学校生活を捉え、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指す特別活動の役割は重要である。

学習指導要領解説特別活動編(H29,以降,解説特別活動編)では、学級活動(1)「ア学級や学校における生活上の諸問題の解決」において合意形成を図っていく手順や方法を身に付け、自分と異なる意見や少数意見も尊重し、折り合いを付けて集団としての意見をまとめる資質・能力を育成することが必要であることが述べられている。そして、それは、異なる意見や考えを基に様々な解決の方法を模索したり、折り合いを付けたりすることが「互いのよさや可能性を發揮する」ことにつながると述べている。特別活動は、集団活動を通して、自主的・実践的

活動を充実させるため、一連の活動を一体的に取り組むことが重要ではあるが、本研究では、学級活動（1）の学習過程における「話し合い活動」とその「事前の活動」に焦点をあて、合意形成を図る研究をしていきたい。

これまでの話し合い活動への取り組みを振り返ってみると、事前の活動の場においては、行事と関連した議題や教師が設定する議題について話し合うことが多く、児童が気づいた問題やみんなで解決したいという思いを議題につなげた話し合い活動が不十分であった。また、意見をまとめる場においては、自分と異なる意見や少数意見を尊重せずに安易に多数決で決定することもあり、みんなが納得した合意形成を図るための手立てに対して難しさを感じていた。

これらの課題解決に向け、学級や学校生活上において、児童にとって必要感のある議題を学級全員で話し合っ選定することや合意形成を図る手順や活動の方法を身に付けることが必要である。また、多様な意見を認め合い、互いのよさを生かしながら考え、折り合いを付けて合意形成を図ることが、人間関係形成をよりよくし、学級生活の充実と向上を目指すことにつながると思う。

そこで、本研究では、諸問題の発見と議題選定や合意形成を図る視点を重視した事前の活動の充実と話し合い活動において、板書を活用した可視化の工夫をすることにより、多様な意見を認め合い、互いのよさを生かし合いながら創意工夫して合意形成を図る児童の育成につながることを考え、本テーマを設定した。

## II 目指す子ども像

多様な意見を認め合い、互いのよさを生かし合って合意形成を図る児童

## III 研究の目標

話し合い活動において、互いのよさを生かして合意形成を図る児童の育成のために、事前の活動の充実と多様な意見の可視化の工夫について研究する。

## IV 研究仮説

### 1 基本仮説

話し合い活動において、事前の活動の充実と多様な意見の可視化の工夫をすることによって、互いの意見を比べ合い、認め合いながら、よさを生かし合って、合意形成を図る児童の育成が

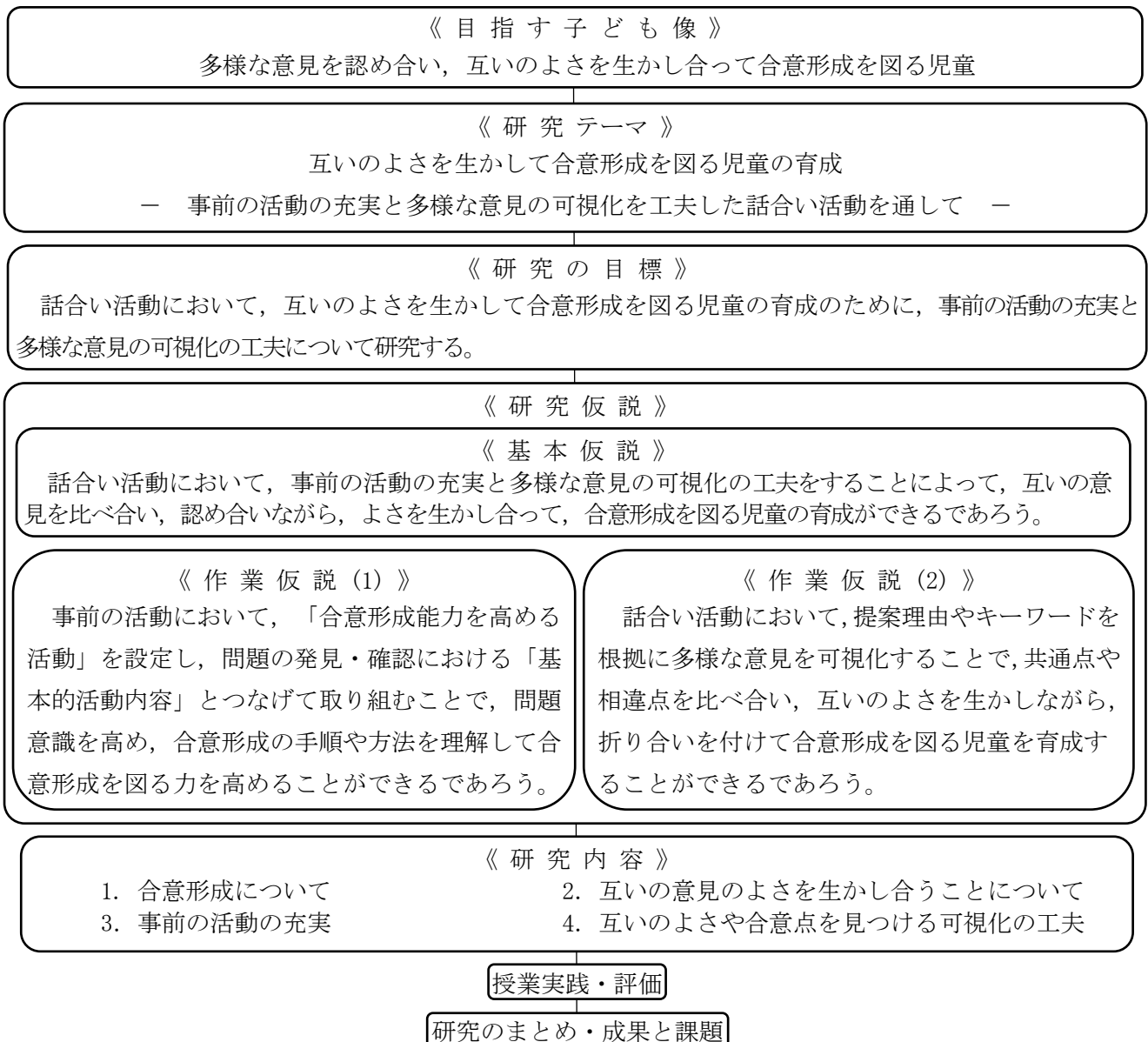
できるであろう。

### 2 作業仮説

(1) 事前の活動において、「合意形成能力を高める活動」を設定し、問題の発見・確認における「基本的活動内容」とつなげて取り組むことで、問題意識を高め、合意形成の手順や方法を理解して合意形成を図る力を高めることができるであろう。

(2) 話し合い活動において、提案理由やキーワードを根拠に多様な意見を可視化することで、共通点や相違点を比べ合い、互いのよさを生かしながら、折り合いを付けて合意形成を図る児童を育成することができるであろう。

## V 研究構想図



## VI 研究内容

### 1 合意形成について

#### (1) 合意形成とは

河村(2018)は、学級活動の話合い活動における合意形成とは、「学級の課題について、個々の子どもが見出した思いを意見として出し合い、互いの意見の違いや多様な考えがあること、それぞれの意見に意味があることを大切に、最もよい解決策をみんなで構築していくこと」と述べている。このことから、合意形成とは相手の立場や考え方を互いに理解し、それらのよさを生かしながら、「自分もよくてみんなもよい」といった合意の過程に納得した上で、集団としての意見をまとめていくことであると捉える。

また、中央教育審議会答申(R3)では、次代を切り拓く子ども達に求められる資質・能力として、「目の前の事象から解決すべき課題を見だし、主体的に考え、多様な立場の者が協働的に議論し、納得解を生み出すこと」が挙げられている。このことから、特別活動における納得解とは、話し合い活動における合意形成と捉える。今後、ますます必要とされる多様な人々との共生社会で生きていく力として、合意形成を図る力は重要度が高いと考える。

#### (2) 合意形成を図る資質・能力について

解説特別活動編(H29)では、学級活動(1)「学級や学校における生活づくりへの参画」における、「ア 学級や学校における生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図り、実践すること」の内容について、児童が合意形成に向けた資質・能力を身に付けていくことで、よりよい合意形成を図る力へつながると考える。そこで、解説特別活動編(H29)をもとに、合意形成を図る資質・能力を「合意形成能力」と設定した(表1)。

表1 合意形成能力

知識及び技能	<u>合意形成の手順や活動の方法を身に付ける。</u>
思考力 判断力 表現力等	<u>課題を見だし、話し合い、<b>多様な意見を認め合い、よさを生かして合意形成を図る。</b></u>
学びに向かう力、人間性等	<u><b>他者と協働しながら学級や学校生活の向上を図ろうとする態度を養う。</b></u>

本研究では、事前の活動において、学級や学校生活をよりよくしようとする問題意識を高め、折り合いを付けて合意形成を図る手順や活動の方法を身に付けることを目指したい。また、話し合い活動において、多様な意見の可視化を工夫することで、共通点や相違点を比べ合い、互いのよさを生かして合意形成を図る児童を育ていきたいと考え、実践に取り組んでいく。

#### 2 互いの意見のよさを生かし合うことについて


特別活動指導資料「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動小学校編(2016,以降,特別活動指導資料)」では、特別活動における「集団や社会の形成者としての見方・考え方」として、「互いのよさを生かすような見方・考え方」と示している。また、「意見のよさを見つけることや多くの意見を生かし合う意識をもちながら話し合うこと」、「意見の背景を聞き合ったり、論点になっていることを中心に話し合ったりすること」で、お互いの意見のよさを合わせた総意に満ちた考えが生まれ、納得できる意見を見つけることにつながると考える。これらのことから、互いの立場に立ってよさを考える活動や互いの意見を高め合う取り組みを設定する。その活動を通して、互いのよさを生かす見方・考え方を働かせ、一人一人を尊重し、互いのよさや可能性を發揮しながら、全員が等しく合意形成に関わることで、協働してよりよい生活を築くことができるようにしたい。

#### 3 事前の活動の充実

杉田(2013)は、「学級会の成否は、事前指導で決まると言っても過言ではない」と述べている。そこで、特別活動指導資料(2016)をもとに、

合意形成の手順や活動の方法に関する知識や技能を身に付けるための「合意形成能力を高める活動内容」を設定し、事前の活動の内容に取り入れ、表2のように示した。

表2 事前の活動の内容の設定項目

事前の活動の内容
<b>(1) 合意形成能力を高める活動内容</b> ①合意形成を図る視点について ②折り合いについて ③自学自習の設定  (情報収集, 質問と回答, よさを見つけ合う等)
<b>(2) 基本的活動内容(問題の発見・確認)</b> ①問題の発見      ②議題の選定(計画委員会) ③議題の決定(学級全員) ④活動計画の作成(計画委員会・提案者) ⑤問題の意識化

本研究では、表2の「合意形成能力を高める活動内容」と「基本的活動内容」をつなげた事前の活動に取り組むことで、よりよい合意形成を図ることを目指す。

(1) 合意形成能力を高める活動内容

- ① 合意形成プロセスを図る視点について  
 特別活動指導資料(2016)では、学級会において、「大切なのは、合意形成に向かうためのプロセス」と示し、合意形成を図るための視点を挙げている(表3)。

表3 合意形成を図る視点

①互いの意見を理解し合う (相手の立場に立って、共感的に理解する) ②何が違うのか明確にする (理由を明確にして比較する) ③見方を考える(視点を考えて比較する)
---

このことから、学級会の各段階における活動の手順や合意形成を図る視点をおさえながら話し合うことが、よりよい合意形成を図ることにつながると考える。

そこで、本研究では、事前の活動において、話し合い活動で参考にする資料を作成し、合意形成を図る視点を学級全体で確認することで、理由や視点を基に比較し、共感的な態度で話し合い、互いのよさを生かしながら折り

合いを付けて合意形成を図ることができる。特別活動指導資料(2016)をもとに、各段階における合意形成プロセスの視点を設定した(表4)。

表4 合意形成プロセスの視点

	合意形成を図る視点	評価
出し合う	★友達の考えを自分の考えと比べながら聞く。 (共通点, 相違点)	
	①理由を明確にして自分の考えを伝える。	
	②質問をして、相手の考えを知る。	
比べ合う	★共通点や相違点を見つけたり、長所や短所を比べながら考える。	
	③お互いの意見のよい所を見つけたり、伝えたりする。	
	④相手の意見へのアドバイスを見つけたり、伝えたりする。	
	⑤提案理由や決まっていることをもとに、意見をしぼる。	
まとめる (決める)	⑥目的に合う「折り合い」を付ける。	
	⑦少数意見を大切に「合意形成」を図る。 ☆「みんなにとっていい、自分にとってもいい」 ☆「自分たちの学級に一番大切なものごと」	

この表を活用し、本時の話し合い活動における合意形成に向けた手順や振り返る場面において、上記の項目をワークシートの振り返りの内容として活用することで、合意形成を図る力が身に付くと考える。

② 折り合いの必要性と方法について

解説特別活動編(H29)では、「集団における合意形成では、同調圧力に流されることなく、批判的思考力を持ち、他者の意見も受け入れつつ自分の考えも主張できるようにすることが大切である。そして、異なる意見や考えを基に、様々な解決の方法を模索したり、折り合いを付けたりすることが、『互いのよさや可能性を發揮しながら』につながる」と述べている。このことから、自分と異なる意見や少数意見も尊重し、多くの意見のよさを生かす折り合いの方法を知ることが、よりよい意見をまとめる「思考力・判断力・表現力等」の育成につながると考える。

特別活動指導資料(2016)では、折り合いを付ける方法が例として示されている。それらの方

法をもとに学級の実態に応じて以下の内容を設定し、事前の活動の資料として作成した(表5)。

表5 折り合いを付ける方法

折り合いを付ける方法
①条件を付ける(付け足し) 「〇〇の意見に、△△を付け加えると、よいと思います。」 「△△の内容が入れば、条件に合うので、〇〇の意見がよい。」
②優先順位を決める 「提案理由や条件に合う優先順位を付けると、学級のみみんなのためになる意見は〇〇の意見が1番よいと思います。」
③新しい考えをつくる 「意見のよさを生かして、新しい意見にしてはどうですか。」 「〇〇の新しい意見にすると、みんなの意見が入るね。」
④少しずつ全部行う 「時間を工夫して両方行うことはどうですか。」 「みんなの意見をまとめて工夫して行うことはどうですか。」
⑤キーワードをもとに決める 「〇〇の意見がキーワードの内容を網羅しているのでよい。」
⑥これまでの経験を振り返って決める 「〇〇の意見は、前に～した経験から、〇〇の方がよい。」

この表を活用し、意見をまとめる場面において、折り合いを付ける方法を見つけ合うことで、話し合いの流れや目的に合った意見にしぼり、よさを生かしながら創意工夫して合意形成を図ることができる。と考える。

### ③ 自学自習の設定

有村(2017)は、「学級会では、自分の意見を大切にすることが必要である」とし、その際、「なぜその意見を大切にしているのか理由を明らかにして、意見を伝える」ことや「自分の経験やこれまでの学級の取組を想起させたり、事前に意見をワークシートにまとめたりするなどの工夫」が必要と述べている。このことから、学級会における議題について、目指す姿に向けたよりよい解決の方策や解決後のイメージをより明確にする場の設定が必要と考える。

また、特別活動指導資料(2016)では、出された意見を理解するために、「質問を通して意見の内容やそこに込められている思いを確認することや、「意見の内容を聞き合うことが、

合意形成を目指す話し合いの基礎」になることを述べている。このことから、個人または小グループで事前に質問する内容や相手が質問してくる内容の予想およびその回答について話し合う時間を設定することで、多様な視点から意見を捉え、比べ合いながら、互いの意見を共感的に理解することにつながると考える。

そこで、基本的活動内容(問題の発見・確認)における問題意識を高める活動において、自分の意見について調べたり、互いへの質問とその回答や相手の意見のよさについて考えたりする自学自習の場を設定することで、自分の意見をより深め、自分と異なる意見や少数意見を尊重できるようにしたい。

### (2) 基本的活動内容(問題の発見・確認)

#### ① 諸問題の発見と議題の選定の工夫

特別活動指導資料(2016)では、諸問題を発見する力を育むためには、「学級会とは何のためにあるのか」、「どのような時間なのか」など、その意義や目的について繰り返し指導を行うことが必要と述べられており、よりよい学級や学校生活づくりに向けた諸問題を見つける視点を示している(表6)。

表6 問題発見の視点

○みんなでしてみたいこと
○学校生活がもっとよくなること
○みんなでつくってみたいこと
○以前の活動の課題になったこと
○みんなにお願いしたいことや、解決したいこと

また、稲垣(2020)は、「議題の選定に力を注ぐことが、子供たちに問題意識をもたせるスタートとして必要」と述べている。これらのことから、児童が学級や学校の生活上の諸問題を「自分たちの課題」と捉え、学級全員で協力して解決できる議題を選定する必要がある。そこで、本研究では、特別活動指導資料(2016)を参考に、児童がよりよい生活づくりに向けた問題発見の視点を示し、今の学級の姿を見つめ、目指す学級に向けて考えられる解決の方法をイメージできる提案カードを作成した(図1)。

提案カード	月	日	名前	
提案します! ( )個人から ( )係から				
提案したいこと ( )みんなでしてみたい。 ( )みんなで学級をよくしたい。 ( )みんなで作ってみたい。				
『提案理由』				
①今の学級の姿	→	②課題を解決すること(理由)	→	③めざす学級の姿
この提案については、 1 学級会で話し合う。 2 委員会や係にお願する。 3 朝の会・帰りの会で話し合いする。 4 先生にお願する。 5 その他 ( )				

図1 議題の提案カード

さらに、望ましい議題の決定につなげるために、議題を整理、選定しやすい表を活用して、学級生活の充実や向上のために、学級全員で必要感のある議題決定の場を設定する(図2)。

議定の視点	学級全員が協力しなければいけない議題	自分たちで工夫し、協力できる議題	学級や学級生活をよりよいものにする議題	多くの児童が早く解決したい議題	議題	どこで解決するか?
出された意見						

図2 議題選定表

4 互いのよさや合意点を見つける可視化の工夫

(1) 可視化の有効性

杉田(2020)は、合意形成に必要不可欠なのが個々の意見とその理由、共通の比べ合う視点などが子ども達に一目瞭然で把握できる板書の工夫が大事であるということを述べている。このことから、多様な意見の可視化を工夫することで、話し合いの視点を押さえながら個々の意見の理由を理解し、互いの意見のよさや問題点を見つけたり、共通点や相違点を比べ合ったりして、提案理由に合ったよりよい意見にまとめるための手立てになると考える。

(2) 互いのよさを高め合う可視化の工夫

特別活動指導資料(2016)では、よりよい意見を見いだすために、「意見のよさを見つけること」や、「多くの意見を生かし合う意識を持ちながら話し合う」ことで、「お互いの意見のよさを合わせた、創意に満ちた考え」ができる

ことを述べている。そこで、相手の立場に立って意見のよさを見つけるごとに花びら一枚を増やしていく「ハッピーフラワー」の活動を設定することで、互いのよさに目を向け、自分の意見と比べたり、よさを生かして新しい考えを創る思考につながると考える(図3)。

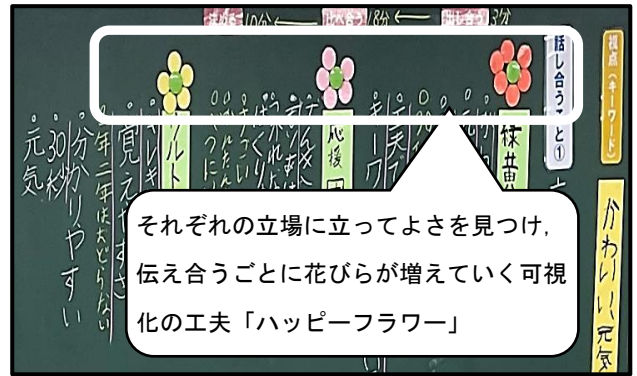


図3 ハッピーフラワー

(3) 合意点を見つける可視化の工夫

杉田(2013)は、「児童から出された意見を可視化し、それらを話し合いの流れに即して操作化し、合意形成までの流れがわかるように構造化していく。」と述べている。そこで、本研究では、「①目指す姿や提案理由を基に色別にキーワード化する」、「②出された意見をキーワードごとに色分けする」活動の工夫を通して、共通の視点をもって比べ合うことで、提案理由に合ったよりよい意見にしばることができると考える。

また、それぞれの意見の違いや改善点を見つけやすくなることで、友達の見解にアドバイスを付け足したり、条件を付け足したりするなど、折り合いを付けて合意形成を図ることにつながると考える(図4)。

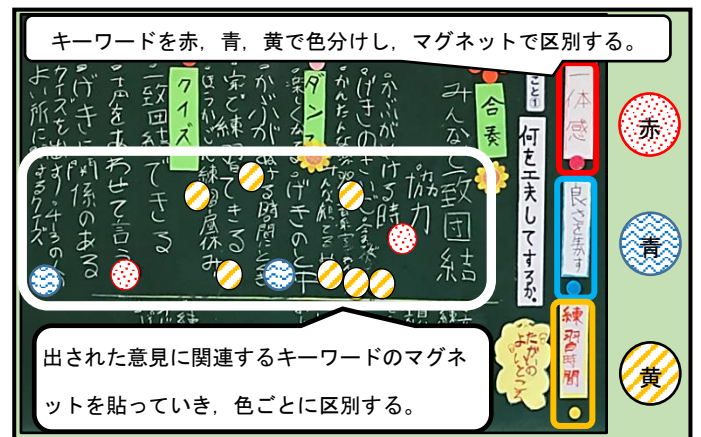


図4 意見とキーワードをつなぐ可視化の工夫



## Ⅶ 授業実践

### 1 検証の計画

	日程	活動の内容	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
	<b>実践1 議題 「学年や学級の団結を深める内間カップをしよう」</b>			
	計画委員会★ 全員☆			
学級活動 事前 ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決	11/30 (水) 4校時	☆学級会の意義や進め方について確認する。 ☆計画委員会を選定する。 ★計画委員会の役割分担を決める。	・学級会の役割や合意形成を図ることの意義、方法について確認する。 ★輪番制や各グループの役割分担について確認する。	【知識・技能】 ◎楽しい学級生活をつくるために他者と協働したり、合意形成の手順について理解してる。 〈観察・ワークシート〉
	12/1 (木) 6校時	☆問題発見や議題の選定について確認する。 ★学級会の活動計画を立てる。	・学級、学校生活の充実や向上のための望ましい条件や提案者の思いや願いを大切にしたい議題の選定について確認する。 ・問題発見や議題選定の視点を確認しながら進める。 ★役割分担し、仕事内容を確認する。	◎議題の意義を確認し、めざす姿に向けてこれからみんなで協働して実践していくことを理解している。〈観察〉
	12/6 (火)	☆学級会の議題を選定、確認する。 ★活動計画書や仕事分担、掲示物の準備をする。	・議題選定表を活用して、視点を意識した選定をする。 ・①学級の現状(課題)、②課題の改善策、③目指す学級の姿の視点を確認する。	【知識及び技能】 ◎議題の意義を確認し、めざす姿に向けてこれからみんなで協働して実践していくことを理解している。〈観察〉
	12/8 (木) 5校時	☆出し物について調べよう。 (自学自習)	・目的や提案理由を踏まえて考えるように助言する。 ・目指す学級の姿を確認する。	【学びに向かう力・人間性等】 ◎提案理由や条件をもとに学級の目指す姿を考えて調べている。 〈ワークシート〉
	12/9 (金) 5校時	☆出し物の流れとなる中心の内容を決める。	・目的や提案理由を踏まえて考えるように助言する。 ・目指す学級の姿を確認する。	【思考・判断・表現】 ◎議題について自分の考えをもち、互いの意見のよさを生かしながら、合意形成を図ろうとしている。〈観察〉
	12/12 (月) 5校時	☆学級会ワークシートに自分の考えを書く。 ★全員の学級会ノートを確認して話し合いの準備や仕事内容の確認をする。	・工夫と役割については、 <u>互いのよさの視点</u> をもとに考える。 ★全員の学級会ノートを確認して話し合いの準備や仕事内容の確認をする。シミュレーションする。	【思考・判断・表現】 ◎提案理由や条件に合った自分の考えをもち、話し合いに見通しをもちながら考えている。 〈観察・ワークシート〉
	12/13 (火) 3校時	☆「学年、学級の団結を深める内間カップをしよう」 <u>めあて</u> 互いのよさを生かし合って、合意形成を図ろう。	・目的や提案理由を踏まえ、目指す学級の姿をイメージしながら話し合うことを助言する。	【思考・判断・表現】 ◎解決方法について比べ合い、互いのよさを生かしながら創意工夫して合意形成を図ろうとしている 〈観察・ワークシート〉
	事後 12/14 (水) ～ 12/21 (水)	☆役割分担する。 ☆役割ごとに、具体的な活動計画を立てて協力して準備する ☆全体練習する。	・それぞれの長所を生かして役割を決めるよう助言する。 ・協力し合いながら準備に取りかかるように声かけする。	【学びに向かう力・人間性等】 ◎実践に向けて、役割に協力して取り組んでいる。 〈観察・振り返りシート〉

	12/22 (木) 実践	「内間カップ」 <b>めあて</b> 発表を通して、互いのよさや 頑張りを認め、学年や学級の 団結を深めよう。	・学年集会の目的を確認して、協力 して実践できるように声かけする ・目指す学級の姿を達成に向けた助 言をする。	【学びに向かう力・人間性等】 ◎学年集会の目的を意識し て、協働して取り組もう としている。〈観察〉
	振り返り	☆内間カップの振り返りをす る。 ★振り返りをする。	・自分のよさや互いのよさ、学級の 成長を自覚できるように、視点を もとに振り返る。 ・互いに伝え合い、次の活動につな がるような助言をする。	【学びに向かう力・人間性等】 ◎一連の活動を振り返ること で、互いのよさを認め 合い、次の活動に生かそ うとしている。
<b>実践2 議題 「よさを見つけ合い、みんなが自信をもつ4年3組にしよう」</b>				
計画委員会★ 全員☆				
事前	1/6 (金) 放課後	☆計画委員会の選定する。 ★計画委員会の役割分担をす る。	★輪番制や各グループの役割分担に ついて確認する。	
	1/10 (火) 6校時	☆第二回学級会の議題選定、確 認をする。 ★学級会の活動計画をたてる。 ★掲示物を作成する。	・アンケート結果を通して、自分事 として捉えるよう助言する ・①学級の現状（課題）、②課題の 改善策、③目指す学級の姿の視点 を確認する。 ・キーワードを決める。	【知識及び技能】 ◎議題の意義を確認し、めざ す姿に向けてこれからみ んなで協働して実践して いくことを理解してい る。〈観察〉
	1/11 (水) 5校時	☆第二回学級会の話し合う柱を 決める。 ☆自学自習する。 ☆合意形成の視点を確認する。 ★掲示物作成、シナリオの確認	・目的や提案理由を踏まえて考える ように助言する。 ・目指す学級の姿を確認する。 ★シナリオを計画委員で通読しなが ら確認する。	【学びに向かう力・人間性等】 ◎提案理由や条件をもとに 学級の目指す姿を考えて 調べている。 〈ワークシート〉
	1/12 (木) 5校時	☆学級会ワークシートに自分の 考えを書く。 ★全員の学級会ノートを確認し て話し合いの準備や仕事内容 の確認をする。	・工夫と役割については、 <u>互いのよ さの視点</u> をもとに考える。 ★全員の学級会ノートを確認して話 し合いの準備や仕事内容の確認を する。シミュレーションする。	【思考・判断・表現】 ◎提案理由や条件に合った 自分の考えをもち、話し 合いに見通しをもちながら 考えている。 〈観察・ワークシート〉
	1/13 (金) 2校時	☆「よさを見つけ合い、みんなが 自信をもつ4年3組にしよう」 <b>めあて</b> 互いのよさを生かし合って、 合意形成を図ろう。 ★振り返りをする。	・目的や提案理由を踏まえ、目指す 学級の姿をイメージしながら話し 合うことを助言する。 ★役割や運営について振り返るよう に助言する。	【思考・判断・表現】 ◎解決方法について比べ合 い、互いのよさを生かし ながら創意工夫して合意 形成を図ろうとしている 〈観察・ワークシート〉
事後	1/16 (月) ～ 1/17 (火)	☆役割分担する。 ☆役割ごとに、具体的な活動計 画を立てて、協力して準備す る。	・それぞれの長所を生かして役割を 決めるよう助言する。 ・協力し合いながら準備にかか るように声かけする。	【学びに向かう力・人間性等】 ◎実戦に向けて、役割に協 力して取り組んでいる。 〈観察・振り返りシート〉
	1/18 (水) 実践 振り返り	☆「自分のよさを知ろう」 <b>めあて</b> 自分のよさを発表しよう。 ★振り返りをする。	・自分のよさや互いのよさ、学級の 成長を自覚できるように、視点を もとに振り返る。 ・互いに伝え合い、次の活動につな がるような助言をする。	【学びに向かう力・人間性等】 ◎一連の活動を振り返ること で、互いのよさを認め 合い、次の活動に生かそ うとしている。

## 2 検証授業 第1回目（実施日 2022年12月13日）

### (1) 議題「学年、学級の団結を深める内間カップをしよう」


学級活動（1）ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

### (2) 本議題のねらい

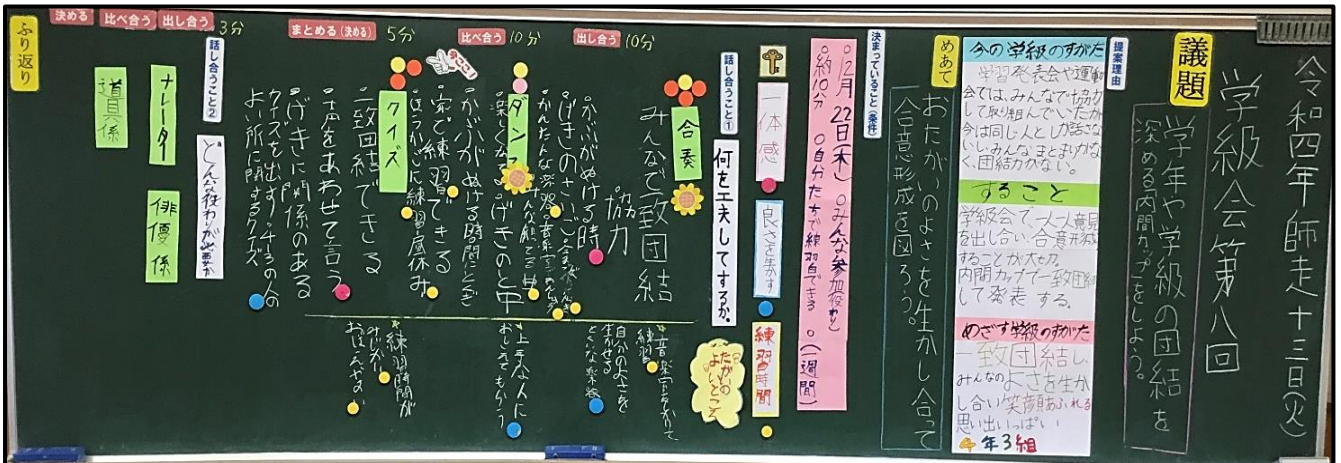
○互いの意見のよさを認め合い、折り合いを付けて合意形成を図る。

○目指す学級の姿に向かって、学級で団結してよりより学級を築こうとする態度を育む。

(3) 授業の概要

	児童の活動	指導上の留意点 ○児童の反応 □教師の手立て	◎目指す児童の姿 【観点】(評価方法)																
導入 5分	1 はじめの言葉 2 計画委員会の紹介 3 議題の確認 4 提案理由やめあての確認 5 決まっていることの確認  日時：12月22日(木)2校時 場所：体育館 時間：10分間(出し物) 内容：劇中心  6 キーワードの確認 ①一体感 ②よさを生かす ③練習期間(1週間)  7 先生の話	議題『学年や学級の団結を深める「内間カップ」をしよう』  提案理由 <table border="1"> <thead> <tr> <th>【今の学級】</th> <th>【すること】</th> <th>【目指す姿】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・これまでは協力して取り組んできたが、今はまとまりがない。</td> <td>・合意形成する。 ・内間カップで一致団結して発表する。</td> <td>・一致団結し、互いのよさを生かし合い、笑顔あふれる思い出いっぱい3組。</td> </tr> </tbody> </table> めあて：お互いのよさを生かし合って、合意形成を図ろう。	【今の学級】	【すること】	【目指す姿】	・これまでは協力して取り組んできたが、今はまとまりがない。	・合意形成する。 ・内間カップで一致団結して発表する。	・一致団結し、互いのよさを生かし合い、笑顔あふれる思い出いっぱい3組。											
【今の学級】	【すること】	【目指す姿】																	
・これまでは協力して取り組んできたが、今はまとまりがない。	・合意形成する。 ・内間カップで一致団結して発表する。	・一致団結し、互いのよさを生かし合い、笑顔あふれる思い出いっぱい3組。																	
展開 30分	8 話し合い (1)話し合うこと①(15分) 「何を工夫してするか」 ・出し合う ・比べ合う ・決める   図5 板書を確認しながら意見をまとめる様子 (2)話し合うこと② 「どんな役割が必要か」	<table border="1"> <thead> <tr> <th>○合奏</th> <th>○歌</th> <th>○ダンス</th> <th>○クイズ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○合奏係</td> <td>○歌係</td> <td>○ダンス係</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○お笑い係</td> <td>○クイズ係</td> <td>○俳優係</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ナレーター</td> <td>○道具係</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> □司会が困った時は、方向性を示唆する。 □合奏はピアノが上手な人がいるからできる。 □～を入れるとしたら、どのように入れますか。 □必要に応じて、自分の意見に固執せず、納得したうえで考えを変えるなど、折り合いを付けて合意形成を図ることの大切さについて助言する。 □必要に応じて、納得できない児童に対して、どのような工夫をすれば納得できるか話合うよう助言する。  □それぞれの内容の役割については、事前に短冊に用意しておく。	○合奏	○歌	○ダンス	○クイズ	○合奏係	○歌係	○ダンス係		○お笑い係	○クイズ係	○俳優係		○ナレーター	○道具係			◎これまでの集会活動の経験を生かしたり友達との共通点や相違点を比べながら聞いて出し物の内容や工夫について考えている。  ◎互いのよさを生かしながら、創意工夫して合意形成を図ろうとしている。 【思考・判断・表現】 (観察・発言)
○合奏	○歌	○ダンス	○クイズ																
○合奏係	○歌係	○ダンス係																	
○お笑い係	○クイズ係	○俳優係																	
○ナレーター	○道具係																		
終末 10分	9 決まったことの発表 10 話し合いの振り返り 11 先生の話 12 終わりの言葉	□自分や友達のよさを互いに伝え合う。 □目標が達成できたかどうか確認する。 □①前回の話し合いと比べてよかった点、合意形成したことへの価値付けや称賛、②今後の課題、③計画委員会へのねぎらい、④今後の見通しや実践に向けての意欲付け等について助言する。																	

(4) 板書



3 検証授業 第2回目 (実施日 2023年1月13日)

(1) 議題「よさを見つけ合い、みんなが自信をもつ4年3組にしよう」


学級活動 (1) ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

(2) 本議題のねらい

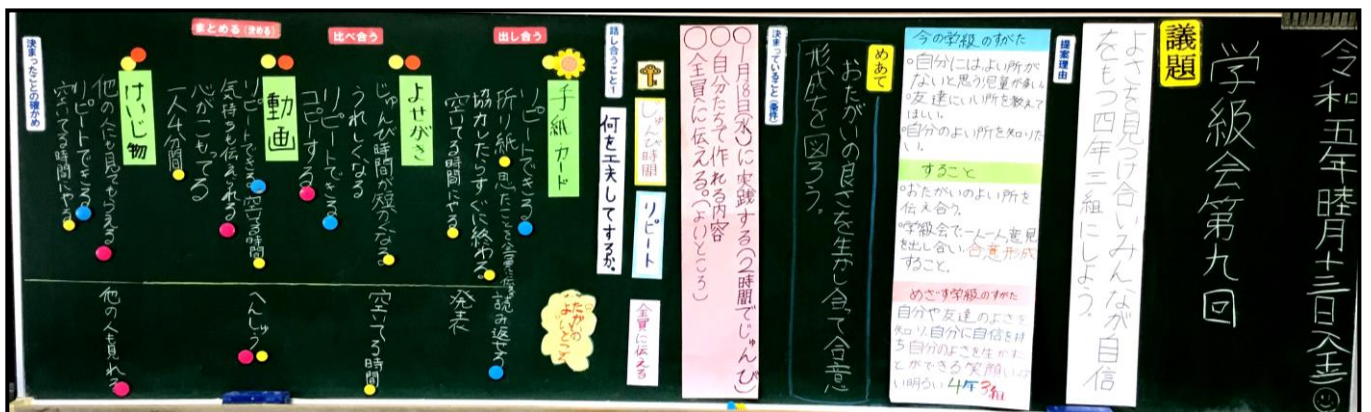
○互いの意見のよさを認め合い、折り合いを付けて合意形成を図る。

○目指す学級の姿に向かって、学級で団結してよりより学級を築こうとする態度を育む。

(3) 授業の概要

	児童の活動	指導上の留意点 ○児童の反応 □教師の手立て	◎目指す児童の姿 【観点】(評価方法)						
導入 5分	1 はじめの言葉 2 計画委員会の紹介 3 議題の確認 4 提案理由やめあての確認 5 決まっていることの確認  日時：1月18日(水) 時間：2時間程度 内容：自分のよさを知ること、自分に自信をもつ。 6 キーワードの確認 ①準備期間(2時間) ②全員に伝える ③リピート  7 先生の話	議題『よさを見つけ合い、みんなが自信をもつ4年3組にしよう』 提案理由 <table border="1"> <thead> <tr> <th>【今の学級】</th> <th>【すること】</th> <th>【目指す姿】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・自分にはよい所がないと思う児童が多い。</td> <td>・お互いのよい所を伝え合う。 ・学級会で、一人一人意見を出し合い、合意形成する。</td> <td>・自分や友達のよさを知り、自分に自信もち、自分のよさを生かすことができる笑顔いっぱい4年3組。</td> </tr> </tbody> </table> めあて：お互いのよさを生かし合って、合意形成を図ろう。	【今の学級】	【すること】	【目指す姿】	・自分にはよい所がないと思う児童が多い。	・お互いのよい所を伝え合う。 ・学級会で、一人一人意見を出し合い、合意形成する。	・自分や友達のよさを知り、自分に自信もち、自分のよさを生かすことができる笑顔いっぱい4年3組。	
【今の学級】	【すること】	【目指す姿】							
・自分にはよい所がないと思う児童が多い。	・お互いのよい所を伝え合う。 ・学級会で、一人一人意見を出し合い、合意形成する。	・自分や友達のよさを知り、自分に自信もち、自分のよさを生かすことができる笑顔いっぱい4年3組。							
展開 30分	8 話し合い (1)話し合うこと(15分) 「何を工夫してするか」 ①出し合う②比べ合う③決める   図6 ワークシートを確認しながら話し合う様子	例：○手紙・カード ○動画 ○掲示  □司会が困った時は、方向性を示唆する。 □必要に応じて、自分の意見に固執せず、納得したうえで考えを変えるなど、折り合いを付けて合意形成を図ることの大切さについて助言する。 □必要に応じて、納得できない児童に対して、どのような工夫をすれば納得できるか話合うよう助言する。 ○～は、～のキーワードがより多く入っているので、～がいいと思います。	◎それぞれの意見の共通点や相違点をキーワードをとりに比べながら考えている。  ◎互いのよさを生かしながら創意工夫して合意形成を図ろうとしている。 【思考・判断・表現】 (観察・発言)						
終末 10分	9 決まったことの発表 10 話し合いの振り返り 11 先生の話 12 終わりの言葉	□自分や友達のよさを互いに認め合い、伝え合う。 □目標が達成できたかどうか確認する。 □①前回の話し合いと比べてよかった点、合意形成したことへの価値付けや称賛、②今後の課題、③計画委員会へのねぎらい、④今後の見通しや実践に向けての意欲付け等について助言する。							

(4) 板書



## Ⅷ 結果と考察

本研究では、学級活動（1）における合意形成を図る事前の活動の内容と実践1の学級活動（1）「学年や学級の団結を深める『内間カップ』をしよう」、実践2の学級活動（1）「よさを見つけ合い、みんなが自信をもつ4年3組にしよう」の2つの実践を行った。ここでは、事前の活動で学んだことと2つの実践のつながりを踏まえて、具体的な手立てとその結果および考察を中心に述べる。

### 1 作業仮説(1)の検証

事前の活動において、合意形成能力を高める活動を設定し、問題の発見・確認における基本的活動内容とつなげて取り組むことで、問題意識を高め、合意形成の手順や方法を理解して合意形成を図る力を高めることができる。

#### (1) 合意形成能力を高める活動内容

##### ① 手立て

事前の活動において合意形成を図るプロセスの視点を示し、活動の手順をおさえた。学級会における参考資料や事後の意識調査資料として活用した。

##### ② 結果

話合いの流れの各段階における合意形成を図るプロセスの視点の意識調査（4年3組30名対象、以降同様）の結果より、2つの実践の前後で比べると、意見を出し合う段階における「友達の考えを自分の考えを比べながら聞く」ことに関する調査について、「できた・どちらかといえばできた」と答えた児童が28%増えた（図7）。

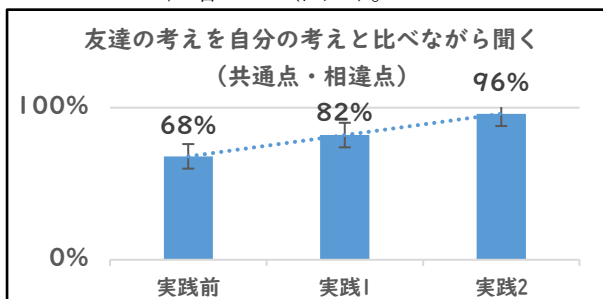


図7 合意形成プロセスの視点

また、意見を比べ合う段階において

も、「意見の共通点や相違点を見つけたり、長所や短所を比べたりしながら考える」ことに関する調査の実践前と実践後では、「できた・どちらかといえばできた」と答えた児童が31%増えた（図8）。

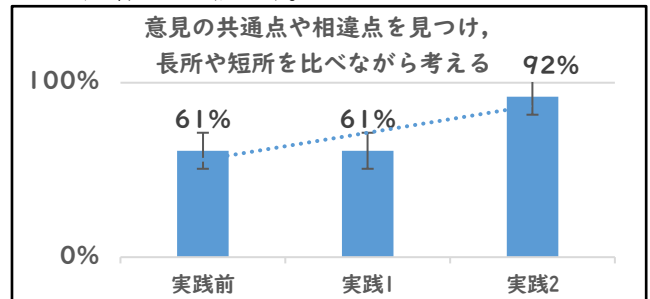


図8 合意形成プロセスの視点

実践1のふり返しにおいて、「合意形成プロセスの視点について理解することができた・どちらかといえばできた」と、88%の児童が肯定的に回答した（図9）。

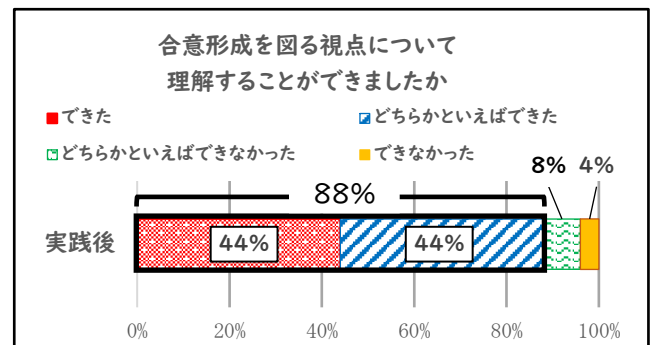


図9 合意形成能力

##### ③ 考察

上記3つの結果から、話合い活動を重ねていくことで、「合意形成を図るプロセスの視点」を理解し、見通しをもって話し合っていることが伺える。

また、話合い活動を計画的、継続的に取り組むことで、合意形成を図る手順や活動の方法を理解し、友達の考えと自分の考えを比較しながら互いの思いを尊重し、よりよい合意形成を図る「知識及び技能」の育成につなげることができた。

#### (2) 折り合いについて

##### ① 手立て

自分と異なる意見や少数意見も尊重し、多くの意見のよさを生かして折り合いを付ける方法を示した。

② 結果

実践1の振り返りシートには、「合体案を出して、少数意見を大切にしたいと思いました。次は、私も少数意見を大切にしたい」と、折り合いを付けて合意形成を図ろうとする思いが見られた。

また、実践1の意見をまとめる場面の授業記録から、友達のことを尊重し、折り合いを付けて合意形成を図ろうとする児童の様子も見られた(表7)。

表7 意見をまとめる場面の授業記録

★折り合いを付けて、合意形成を図る場面	
S1: 私はダンスをやりたいです。	
S2: 合体していいかわからないけど、 <u>かぶが抜けた時にダンスを入れて合奏で音を加えたらダンスもできる。</u>	友達の思いを工夫して取り入れようとする発言
S3: 劇の途中で合奏とダンスを入れるなら、 <u>最後にクイズをいれても覚えられるし、いいと思う。</u>	少数意見を尊重した発言
S4: クイズを入れるなら合奏の人は合奏、ダンスの人はダンスと <u>3班に分かれてもいいと思う。</u>	少数意見を尊重した折り合いを付ける発言
S1: <u>分担してやったら、いいと思う。</u>	少数意見を尊重した折り合いを付ける発言
S2: 例えば、 <u>楽器は楽器をする。ダンスはダンス、クイズはクイズをすればいいと思う。</u>	考えをつないで、折り合いを付けようとした発言

※吹き出しは、筆者記載

実践1を終え、折り合いについて意識調査した結果、「目的に合う折り合いを見つけたり、見つけようとしたりした」ことに関して、「あてはまる、どちらかといえばあてはまる」と答えた児童は、実践1の後は3%減少したが、実践2の後では15%増えた(図10)。

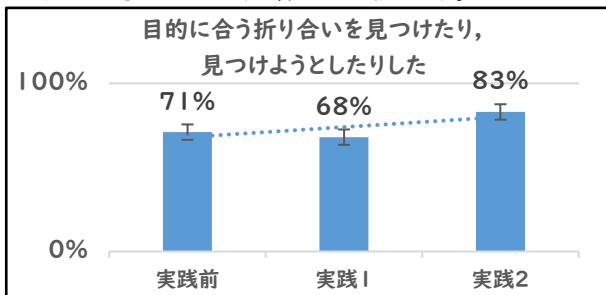


図10 合意形成プロセスの視点

③ 考察

表7を分析すると、「友達の思いを工夫して取り入れようとする」発言や「少数意見を尊重した発言」から、少数意見を尊重し、友達の意見をつないで折り合いを付けようとする児童の思いが伺える。

図10では、実践前と実践1で3%減少した原因は、事前の活動において折り合いの知識を身に付けたことで、これまで「できた」と感じていたことが、「本当にできたのか」と意識が高まったことだと考える。実践1と実践2では、15%の児童が増えた結果から、折り合いを付ける経験を重ねていくことで、合意形成を図る「思考力・判断力・表現力等」の育成につながったと考える。

一方で、教師の発言によって折り合いを妨げる場面があったことから、教師のファシリテーション能力を高めていくことが課題と考える。

(3) 自学自習について

① 手立て

事前の活動において、調べ学習を通して自分の意見をより深めたり、予想される質問への回答や他の意見への質問を考えたり、互いのよさを見つけ合う自学自習の場を設定した。

② 結果

実践1の自学自習の場面では、自分の意見における実践場面を想像することにより、「使える楽器があるか」と、何名かの児童が音楽室へ調べに行く様子が見られた。

また、自学自習のワークシートでは、「ピアノを習っている人から教えてもらおうと、その人のよさを生かすことができると思う」といった、友達のよさを生かして目指す姿を達成しようとする考えが見られた。

事前の活動に関する意識調査では、「議題について自学自習は必要だと思いますか」に関して、96%の児童が必要と肯定的に回答した(図11)。

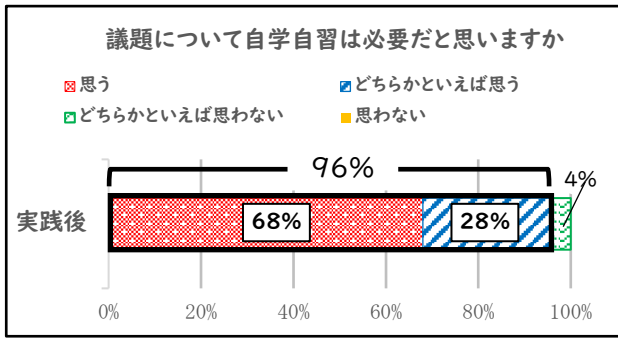


図 11 合意形成能力

③ 考察

自学自習のワークシートや図 11 の意識調査の結果から、児童は実践する自分たちの姿を予想し、これまでの経験を結び付けることで、自分の意見の長所や短所に気づき、より明確な理由や工夫して改善点を見つけようとする考えが深まったと考える。

このことから、事前の活動において、自学自習の場を設定することは、「お互いのよさ」を生かして、合意形成を図ろうとする児童の育成につながったと思われる。

(4) 基本的活動内容

① 手立て

今の学級の姿を見つめ、目指す学級に向けて考えられる解決の方法をイメージする提案カードを活用した。

また、議題設定表を活用して、学級生活の充実や向上のために、学級全員で必要感のある議題の決定の場を設定した。

② 結果

児童が、今の学級の姿を見つめ直し、生活上の諸問題を見つけ、目指す学級に向けて学級全員で解決していきたくて提案が見られた (図 12)。

みんなが自分のよさを知り、生かすことができることで、学級目標の達成につながる提案内容となっている。

提案理由 学級目標への笑顔は必ず見られるため (自信をつけてうれし)

①今の学級の姿  
よいところがしんどいけど、自分のいいところが少しみつけられていない

②課題を解決すること (理由)  
友達にいいところを伝えられるとうれしい、自信がつく (画用紙にもった紙を貼る)

③めざす学級の姿  
みんなが自分のよさを知り、自分のよさを生かすことができる (自分のよさをたくさん発表する、思い出す)

この提案については

図 12 提案カード

また、1学期はほとんどの児童が「お楽しみ会」を提案していたが、実践1に向けた提案内容では、今の学級の姿から諸問題を見つけ、目指す学級の姿に向けて学級全員で協力して解決したいという内容が多く見られた (表 8)。

表 8 議題を選定、決定する記録【実践1】

「1学期：学級会提案内容」  
○お楽しみ会をしたい。 ○みんなで遊びたい。等

↓

「実践1 事前の活動：学級会提案内容」

**今の学級の姿**  
○けじめがない。おしゃべりが多い。集中力がない。  
○内間っ子スタイルを守っていない。(規範意識)  
○いつも遊ぶ人や話す人が同じ。  
○男女があまり話さない。○団結力がない。等

**目指す学級の姿**  
○学級目標を達成したい。(協力、助け合い、仲よく)  
○笑顔すてきな、4年3組をめざしたい。  
○みんなと触れ合って交流したい。  
○みんなが自分のよさを知り、生かすことができる。  
○自分の意見が言えるクラスにしたい。

議題を決定する場において、「学級や学校生活をよりよいものにする議題」、「多くの児童が早く解決したい議題」に視点をあてながら他の議題案との違いを明確に示し、全員の了承を得て議題選定することができた。議題として取り上げられなかった提案内容にも解決方法や次の議題へつなげたりすることができた (図 13)。

選定の視点	学級全員が協力しなければいけない議題	自分たちで工夫し、協力できる議題	学級や学校生活をよりよいものにする議題	多くの児童が早く解決したい議題	議題	どこで解決するか？
出された意見						
内間っ子	○	○	○	○	●	12月の学級の議題にしたい
お楽しみ会	○	○			●	3月の議題にしたい
大縄大会	○					先生と体育係にお願いする。
休み時間の遊び		○				先生にお願する。
互いのよさを伝え、自信をもとう		○	○		●	1月の学級の議題にしたい

図 13 議題選定表

合意形成能力に関する意識調査において、「問題の発見や議題の選定について理解」に関する意識調査では、「できた・どちらかといえばできた」と、88%の児童が肯定的に回答した (図 14)。

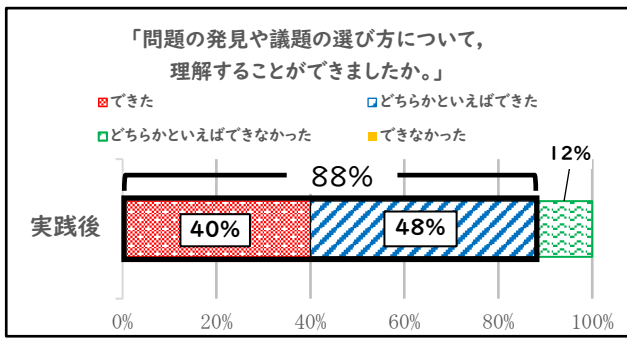


図 14 合意形成能力

③ 考察

児童の提案内容や議題選定の様子から、問題発見や望ましい議題を選定する視点を意識して今の学級の姿を振り返ることで、「学級生活をもっとよくしたい」、「早く解決したい」と自分たちの課題として捉えていることが伺える。

また、学級生活の充実や向上のために学級全員で協力して目指す姿を達成したいという思いの表れだと考える。

2 作業仮説(2)の検証

話し合い活動において、提案理由やキーワードを根拠に多様な意見を可視化することで、共通点や相違点を比べ合い、互いのよさを生かしながら、折り合いを付けて合意形成を図る児童を育成することができるであろう。

(1) 互いのよさを高め合う可視化の工夫

① 手立て

意見を出し合う段階において、相手の立場に立って意見のよさを見つけるごとに花びら一枚を増やしていく「ハッピーフラワー」の活動を設定した。

② 結果

実践1の互いの意見のよさを見つける場面の板書(図15)や授業記録(表9)から、実践場面を想像しながらキーワードとつなげたよさや友達の特技に着目しながらキーワードとつなげたよさを伝える児童が見られた。

一方で、意見のよさへの偏りが見られ、互いの意見のハッピーフラワーを十分に咲かせることはできなかった。

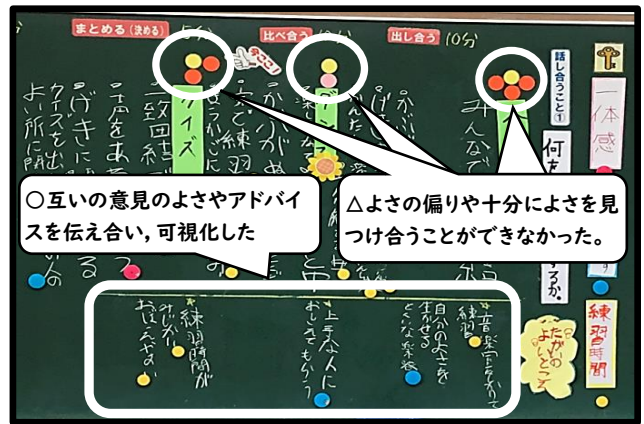


図 15 検証1の意見を可視化した板書

表 9 よさを伝え合う場面の授業記録

★よさを伝え合う話し合いの様子	
S1: 「クイズ」は覚えたら簡単で、一週間の練習時間でもいろんなクイズが考えられる。	キーワードにつなげてよさを見つけた発言
S2: 「ダンス」は、かぶが抜けたらうれしいから、「ダンス」をやったら一体感がでる。	実際の場面を想像しながら、キーワードとつなげた発言
S3: 「ダンス」は、ダンスが上手な人がいるので、教えてもらったら練習時間も短縮できる。	友達のよさに着目し、キーワードにつなげた発言

※吹き出しは、筆者記載

実践1の学級会を終え、「ハッピーフラワーの活動は必要だと思いますか」に関する意識調査では、「必要・どちらかといえば必要」と、100%の児童が回答した。理由としては、折り合いや合意形成を図ることに肯定的な意見が見られた(表10)。

表 10 ハッピーフラワーの活動について

○みんなの意見により所があると自信をもって言える。
○相手のよい所を言うと、相手が納得できて合意形成ができる。
○互いのよさを見つけて、新しい考えができる。
○互いのよさを知ること、相手の立場になれる。

③ 考察

表9や表10から、多くの意見を生かし合おうとする意識や相手の立場に立って共感的に理解して、みんなが納得できる合意形成を図ろうとする意識の向上につながったと考える。

図15から、意見のよさの偏りや十分にハッピーフラワーを咲かせることができなかった理由は、意見を出し合う場において、設定理



由やキーワードを根拠としたよさを十分に出し合っていたことや、それぞれの意見の共通点や相違点を明確にすることができなかつたことで、互いの意見をよりよくするアドバイスを付け足したよさを見つけることにつながらなかつたと思われる。

これらのことから、「視点を変えて比較する」力や自分の意見と比べながら、「互いのよさを生かしてよりよい考えを創る」力を高めていくために、必要に応じた教師の指導や助言、様々な議題による話し合いを積み重ねていくことが必要と考える。

## (2) 合意点を見つける可視化の工夫

### ① 手立て

意見をまとめる場面において、目指す姿や提案理由を基にキーワード化し、色で区別したり(図16では色を文字やパターンで表している)、出された意見をキーワード毎に区別したりする可視化の工夫をした。

### ② 結果

実践2の本時における意見をまとめる場面では、学級の目指す姿や解決後のイメージをした発言をもとに、議題に対する意見への思いや相手意識をもって意見を伝え合う様子が見られた。また、司会による提案理由に合った意見にしばる発言や児童の経験を踏まえた発言から、折り合いを付けて合意形成を図ることができた(図16)。



図16 合意点を見つける可視化した板書

実践2の本時における意見をまとめる場

面の授業記録から、目指す姿に向けたよりよい解決の方策や解決後のイメージをして意見を伝え合っていることが伺えた(表11)。

表11 意見をしばり、まとめる場面の授業記録

★合意形成を図るまでの話し合いの様子

S1: 私は手紙カードがいいと思います。例えば休みの日は・・・動画(iPad)は、休みとかに持ち帰らないと見れないからです。  
キーワードを意識した発言

S2: 私は、掲示物がいいと思います。掲示物してあれば、いつでもリポートできると思う。

S3: 私は寄せ書きがいいです。動画(ipad)だったら、6年生までしか見れない。寄せ書きなら、何年後でも残るからいいと思う。  
解決後をイメージした発言

S1: 掲示物なら、学校に掲示しているので休みの日に見れないと思う。  
解決後をイメージした発言

S4: 寄せ書きだと、全員に伝えることができないけど、コピーをしてみんなにあげれば、全員に伝えることができると思う。  
キーワードを意識した発言

S1: 寄せ書きだとみんなで書くから、書く量を減らさないと・・・手紙カードだと思ったことを結構書ける。  
経験を踏まえた発言 相手意識をもった発言

S1: 寄せ書きはコピーしたら文字が途切れちゃうこともある。手紙カードに一人一人のよさを書いて発表すれば  
全員に伝えられるから手紙カードがいいと思う。  
足りないキーワードを加える発言

※吹き出しは、筆者記載

実践2を終え、「提案理由や決まっていることをもとに意見をしばることができた・どちらかといえばできた」ことに関する意識調査では、実践前と実践2では、42%の児童が増えた(図17)。

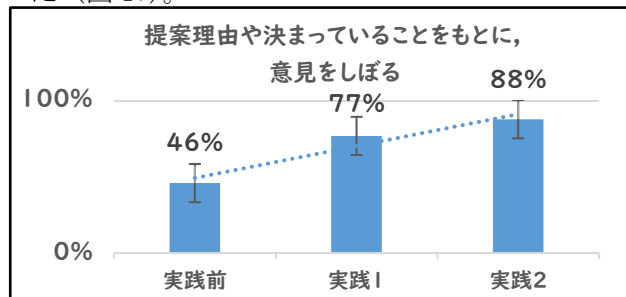


図17 合意形成プロセスの視点

### ③ 考察

板書や授業記録の分析から、多様な意見を可視化することで、互いの意見の共通点や相違点に着目し、キーワードを根拠に工夫点や

改善点を出し合いながら、合意点を見つける話し合い活動につながったと思われる。また、図 17 から、話し合い活動を重ねていくことで合意形成を図る「思考力・判断力・表現力等」の育成につながったことが伺える。

これらのことから、意見をまとめる場において、出された意見をキーワード毎に区別した可視化の工夫は、合意点を見つける手立てとして有効であると考えられる。

### 3 本研究を通じた児童の姿

話し合い活動において合意形成を図ることで、事後の活動や振り返りから、さまざまな児童の姿が見られた（表 12）。

表 12 事後の活動から見られる児童の姿

<p>1. 実践に向けた準備の活動における児童の姿</p> <p>○互いの思いやよさを尊重しながら話し合って役割分担したり、練習に協働して取り組んだりしている姿 ○休み時間や放課後、家で自主練習している姿</p> <p style="text-align: center;">★主体性を持ち、様々な場において合意形成を図る姿</p>
<p>2. 一連の活動の振り返り・・・ワークシートより</p> <p>○「最初は軽い気持ちだったけど、どんどん真剣になっていく」 ○「決めたことに必死に練習するのが4年3組のよさ」 ○「みんなで協力すれば、一致団結して達成できる」</p> <p style="text-align: center;">★自分の気持ちの変容に気付く児童や、学級の成長や次の活動への意識や課題解決に生かそうとする姿</p>
<p>3. 意見が通らなかった児童</p> <p>○「意見が通らずに苦しかったけど、みんなと一緒に協力してできたから、楽しい」</p> <p style="text-align: center;">★学級で協力して楽しい学級生活にしたいと思う姿</p>
<p>○は児童の様子や感想    ★は教師が感じた児童の姿</p>

実践前に実施された意識調査（全校児童対象）では「学校は楽しいですか」の質問に80%の児童が「楽しい、どちらかといえば楽しい」と答えたが、実践後は、100%となった（図 18）。

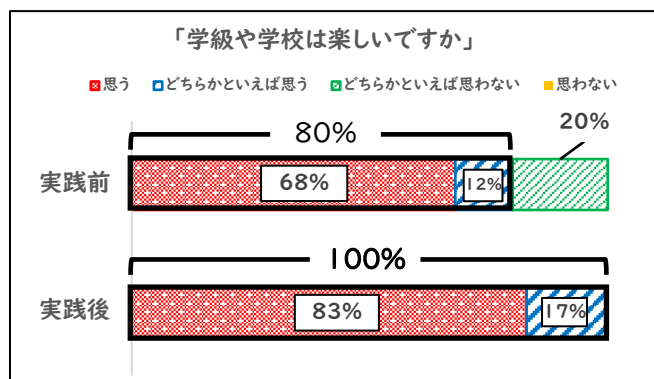


図 18 「学級や学校」について

これらのことから、一連の活動を通して、互いのよさを生かして合意形成を図り、他者と協働することで、学級や学校生活の向上を図ろうとする児童の育成につながると考える。

## Ⅹ 研究の成果と課題

### 1 成果

- (1) 事前の活動において、合意形成能力を高めることは、問題意識をもち、合意形成の手順や方法を理解して合意形成を図ろうとする児童の育成につながった。
- (2) 多様な意見の可視化の工夫をすることで、キーワードを根拠に比べ合い、互いのよさを生かして合意形成を図ることにつながった。

### 2 課題

- (1) 合意形成を図る知識は高まっているが、十分に活用するには、系統性を踏まえながら話し合いの経験と振り返りを積み重ねていくことが必要である。
- (2) 合意形成を図るプロセスにおいて、教師のファシリテーターとしてのスキルを高める必要がある。

### 【主な参考・引用文献】

- ・文部科学省（2017）『小学校学習指導要領解説 特別活動編』 東洋館出版社
- ・中央教育審議会（2016）『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策について（答申）』（R4.11月閲覧）<https://www.bunkei.co.jp/kaitei/images/chukyoshin2017.pdf>
- ・中央教育審議会答申（2022）『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）』（R4.11月閲覧）[https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt\\_syoto02-000012321\\_2-4.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt_syoto02-000012321_2-4.pdf)
- ・文部科学省／国立教育政策研究所 教育課程センター（2019）『みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）』 株式会社 文溪堂
- ・河村茂雄（2018）『特別活動の理論と実際』 株式会社図書文化社
- ・杉田洋（2017）『小学校新学習指導要領 ポイント総整理』 東洋館出版社
- ・杉田洋（2013）『自分を鍛え、集団を創る！ 特別活動の教育技術』 小学館
- ・有村久春（2017）『小学校教育課程実践講座 特別活動』 株式会社ぎょうせい
- ・杉田洋・稲垣孝章（2020）『特別活動で、日本の教育が変わる！ 特活力で、自己肯定感を高める』 株式会社小学館